

民俗編執筆のために、各集落を調査のために訪れるようになって、あっという間に三年余りが過ぎた。できるだけ行事も見せていただきたいと歩いたつもりであるが、すべての集落を訪れることはできなかった。それだけに、記述において濃淡があることはゆがめなく申し訳なく思う。

民俗というのは過去のことには過ぎないと思われるかも知れないが、私たちの先輩が連綿と続けてきた行事やしきたりにはそれなりの意味があったのである。たった一日しか奉納しないのに、何日も練習をした浮立、何故これほどしなければいけないのだろうかと疑問を持った人も多かったと思う。現在、私たちの生活は快適でたいへん便利になった。今後さらに合理化は進みますます暮らしは向上するであろう。しかし、地域には引き継いでいかねばならない民俗があるということも忘れて欲しい。

最後にアンケートをはじめ、貴重な資料をご提供いただいた方々のお名前を一々あげることができないが、改めて感謝を申しあげる。

参考文献

- 久保田町史 昭和四十六年十月 久保田町史編さん委員会
日本石仏事典 昭和五十年十二月 庚申懇話会
人生儀礼事典 二〇〇〇年四月 (株)小学館



昭和40年頃の徳万交差点

ふるさと探訪・思い出の記